



ユーザの削除

この章では、ユーザのグループを Unified Communications Manager ディレクトリから削除する方法について説明します。クエリ検索またはカスタムファイルのいずれかを使用して、削除する既存のユーザレコードを検索できます。

- [クエリを使用したユーザの削除 \(1 ページ\)](#)
- [カスタムファイルを使用したユーザの削除 \(3 ページ\)](#)

クエリを使用したユーザの削除

削除するユーザに関するユーザレコードを特定するためのクエリフィルタを作成できます。



注意 削除アクションは不可逆です。削除したレコードを復元することはできません。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザの削除 (Delete Users)] > [クエリ (Query)] の順に選択します。

[ユーザの削除 (Delete Users Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [ユーザの検索 (Find User where)] ドロップダウンリストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [ユーザID (User ID)]
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- マネージャ (Manager)

- [部門名 (Department Name)]

2 番目の [ユーザの検索 (Find User where)] ドロップダウンリストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- 次の文字列と完全に一致する
- 次の文字列で終わる
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

ヒント データベースに登録されているすべてのユーザを検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 4 さらにクエリを定義して複数のフィルタを追加するには、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにして、ドロップダウンボックスから [AND] または [OR] を選択し、[ステップ 2 \(1 ページ\)](#) と [ステップ 3 \(2 ページ\)](#) を繰り返します。

ステップ 5 [検索 (Find)] をクリックします。

検出されたテンプレートのリストが次の分類で表示されます。

- [ユーザID (User ID)]
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- マネージャ (Manager)
- [部門名 (Department Name)]
- LDAP 同期ステータス

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 ユーザ レコードの削除方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにユーザ レコードを削除する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後でユーザ レコードを削除する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

注意 削除アクションは不可逆です。削除したレコードを復元することはできません。

- ステップ 8** ユーザ レコードを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- このジョブをスケジュールするか、アクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル](#)
- [スケジュールしたジョブの管理](#)
- [ユーザの更新関連のトピック](#)

カスタム ファイルを使用したユーザの削除

1. 削除する各ユーザ ID が別々の行に配置されたテキスト ファイルを作成します。
2. カスタムファイルを Unified Communications Manager サーバーの最初のノードにアップロードします。

ユーザを特定して削除するには、テキスト エディタを使用して、ユーザ ID を含むカスタム ファイルを作成できます。



- (注) bat.xlt で作成された挿入トランザクションまたはエクスポートトランザクションのファイルを削除トランザクションに使用しないでください。代わりに、削除する必要のあるユーザレコードの詳細を含むカスタムファイルを作成する必要があります。削除トランザクションにはこのファイルだけを使用してください。このカスタム削除ファイルでは見出しが不要で、ユーザ ID の値を入力できます。



- 注意** 削除アクションは不可逆です。削除したレコードを復元することはできません。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザの削除 (Delete Users)] > [カスタムファイル (Custom File)] の順に選択します。
- [ユーザの検索/一覧表示 - カスタムファイルの設定に基づいたユーザの削除 (Find and List Users - Delete Users Based on Custom File)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ユーザの削除 (Delete Users where)] ドロップダウンリストボックスで、次の条件のいずれかを選択します。
- [ユーザID (User ID)]

- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- [部署名 (Department)]

ステップ3 [カスタムファイル (Custom file where)] ドロップダウンリスト ボックスで、カスタムファイルのファイル名を選択します。

ステップ4 必要な情報がクエリに含まれていることを確認するには、[検索 (Find)] をクリックします。

ステップ5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ6 ユーザ レコードの削除方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにユーザレコードを削除する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後でユーザレコードを削除する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

注意 削除アクションは不可逆です。削除したレコードを復元することはできません。

ステップ7 ユーザレコードを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

このジョブをスケジュールするか、アクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル](#)

[スケジュールしたジョブの管理](#)

[ユーザの更新関連のトピック](#)

[ファイルのアップロードおよびダウンロード](#)

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。